



山に囲まれたねばねの里「なごみ」



バイオマスボイラー棟



デイサービス棟 (多目的ホール)

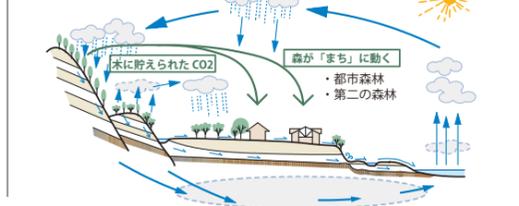
＜建築概要＞

構造・規模：木造平屋建て
準耐火建築物
耐震安全性Ⅱ類（基準の1.25倍）
敷地面積：9354.00m²
建築面積：2520.39m²
延床面積：2251.39m²
(第11回木の建築賞大賞、やま・もり再生賞 受賞)

■ 環境建築としての取り組み

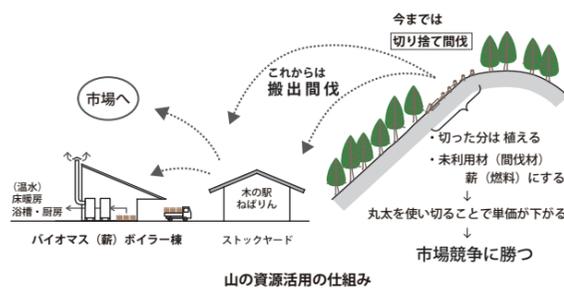
1 近くの山の木を里やまちでつかう (CO₂ 固定の仕組み)

海外や遠くから木材を調達すれば、輸送中に石油資源を大量に消費し、温暖化の原因となります。また、鉄骨造やコンクリート造の建物は、鉄やセメントの製造過程で同様です。これに対し、近くの「山」の木をできるだけムクで使った建築を「里」につくれば、輸送や加工にかかるエネルギー負担を抑え、CO₂ 発生を抑制するためにこれほど有効なことはありません。伐採した山は、又、植林によって更新し、CO₂を山に固定することができます。



2 脱・切り捨て間伐 (木質バイオマスの利用)

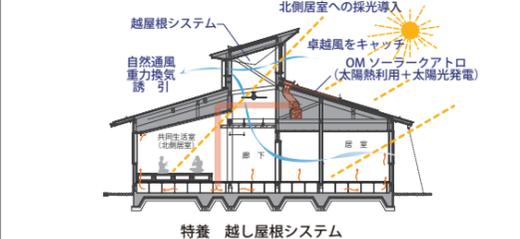
今までは、山に切り捨てて放置してきた間伐の未利用材を「搬出間伐」して活用します。切り捨て間伐を搬出間伐に切り替えることができれば日本中の山が元気に生き返り環境への貢献となります。



山の資源活用の仕組み

3 村の自然エネルギーを活かし 環境と省エネルギーに配慮

南面する居住棟の屋根を利用し、太陽熱利用のOMソーラーシステムによって暖房、換気、排気、お湯とりを電気を使わず自立運転します。同じ屋根面に太陽光発電パネルを載せ、発電を行い電気料負担を減らします。以上の二つのシステムを一つの屋根でハイブリッドに行い、一体化させた美しい屋並を見せます。



特養 越し屋根システム

4 木材の分離発注

山主、発注者、請負業者双方にとってリスクとならず確実に村内産材が使えます。樹木の伐期にも配慮でき、健全な山林育成にもつながります。



芯の赤みが特徴の根羽杉

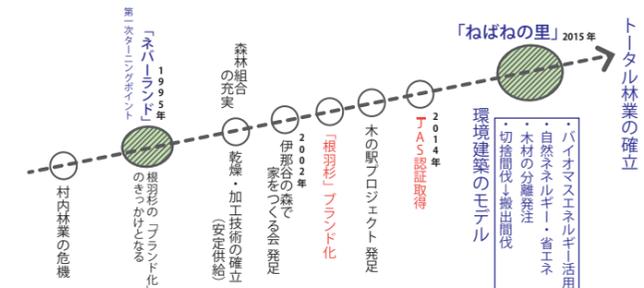


特養棟 共同生活室 (左側の円筒はOMソーラー立下りダクト)

■ トータル林業の確立 = 環境立村へ

村内で森林組合を中心に一次産業から三次産業までを完結させる「トータル林業」のシステムを構築し、森林組合、建築設計士、工務店が連携して地域材を使う仕組みが確立されました。また、良質な材の安定供給のため、次のような技術や認証を受けました。

- 乾燥技術向上のため、高温セット法を導入しました。(長野県林業総合センターの指導)
 - 信州木材認証制度による工場認証及び製品認証を取得しました。
 - 更に2012年には、JAS認定工場(構造用製材)の資格を取得しました。
- 以上により、ブランド化を行い、確かな村の産業として地域に雇用を確保し、持続した地域づくりを行えることになりました。



■ 適材適所に木を使う

建物のほとんどを根羽杉を中心に、一部ヒノキ、カラマツ、タモを構造材から造作材まで村内産材で賄いました。使用量は、合板や床暖房対応の床材を除いた部分に528m³(676坪 坪当たり0.78m³)もの木材が使われています。また、準耐火建築物とする必要があったため、一部燃えしろ設計により、木部を現して施設にありがちな単調で無機質な空間を取り払った、人の居心地を優先に考えた安全性にも配慮したためもりのある豊かな空間を目指しました。



外壁施工写真：外壁の木質化は下地に「石こうボード+鉄板」を張ることで可能としている。

建築作品部門

低炭素型社会の推進

- 都市や農・漁・山村の低炭素化の推進 -

根羽村高齢者福祉施設

ねばねの里「なごみ」

～「根羽杉」で環境立村をめざして～

根羽村は長野県最南端に位置し自然環境に恵まれた美しい村です。森林率は92%を占め、村民全体が山の持ち主でトータル林業を目指しています。また、矢作川の源流地として愛知県下流の自治体や企業との流域連携の様々な交流の輪が広がり、深まりつつあります。

ねばねの里「なごみ」は、村に愛着を持った村民が「自分の家」のように、最後まで村内で暮らすことを願ってできた施設です。「村の木を使う」ことや、間伐材などの未利用材を薪ボイラー燃料に使うなどの地域内での資源の循環。また、民家の越し屋根に学んだ日射・温熱環境のコントロールやOMクワトロソーラー(太陽熱利用+発電)を採用するなどの自然エネルギーの活用。林業立村イコール環境立村へと「持続可能な村づくり」のターニングポイントを目指します。



応募代表者：松下 重雄

有限会社みすゞ設計・代表取締役

1980 みすゞ設計開設

2000～2003 日本建築家協会長野地域会会長

2003～2005 信州大学工学部 非常勤講師

2002～2007 長野県住宅審議会会長

2005～2008 長野県総合計画審議会委員

「地方に生きる」

今、地球は病んでいます。建築界という開発側にいる私達が「創造=破壊」の側面を常に意識し「保護・保存」の視点で破壊をもたらさない提案や行動をしていかなければ、日本の環境や景観は良くなりません。